からしだね 第二十号

2012年8月
□社会福祉法人 からし種の会
事務局 〒950-2071
新潟市西区西有明町2番5号
TEL：025-201-7688
FAX：025-201-7626
E-mail：karashi9845-tane@cyber.ocn.ne.jp
□高齢者グループホーム からし種の家
〒950-2014
新潟市西区小針西1丁目4番22号
TEL：025-267-6600
FAX：025-267-6602
□グループホーム マナの家
□地域福祉事業 マナの家・みんなの家
〒950-2071
新潟市西区西有明町2番5号
TEL：025-201-7688
FAX：025-201-7626

「自宅」としてのホーム(2)

社会福祉法人からし種の会
理事長　山﨑ハコネ

機関誌「からしだね」は、この号で創刊二十号を迎えました。毎号、広報担当の職員の人たちは、原稿依頼から原稿の入力、特集を何にするか、紙面の配置をどうするのか、どの写真を使うか等、工夫を凝らし、知恵を出し合って取組んでいます。おかげで、ホームの暮らしと密接な関係にある「地域医療・看護との連携」を特集に組むことができました。

さて、前号は法人の独自事業としての「マナの家」について書きましたので、ここでは、「グループホーム」について、触れたいと思います。

介護保険導入当時、グループホームは「居宅サービス」、「在宅」としての位置にありました。現在はと言えば、「地域密着型サービス」に移行（二〇〇六・四・一）され、同年に医療連携体制加算が新設されました。その後、看取り加算が短期間に二度も見直されたことにより、最期を迎える場所の選択肢として「グループホーム」を希望するご本人やご家族が増えていくと思われます。

しかし、全国のグループホーム協会の調査研究報告（二〇〇九・三）によれば、一年間の退居者数は一グループホームあたり三・八人と高い価がでています。退居先はといえば、病院（四・三％）、特養等他施設（二十一・九％）そして入院中の病院での死亡等による退居が（十八％）の順でした。医療ニーズが高くなったり、重度化がすすむと制度の「グループホーム」では対応できない問題性を物語っています。

私たちの運営するグループホーム「からし種の家」（二〇〇三・四・一開設）や「マナの家」（二〇一一・四・一開設）の現場においても同じことが言えます。

定員九名のからし種の家は、十年の経過とともに利用者の加齢・重度化が目立つようになりました。この間の退居者は十二名で、その内訳は病院六名（うち五名が入院中に死亡）、他施設に移られた方が五名、自室での看取りが一名でした。数字上では実態がよくみえませんが、亡くなる直前まで、ホームで普通の暮らしをされていた方（二名）をはじめ、ギリギリのところまで「いつもの生活」が続けられてきました。

末期ガンの痛みのために長期入院となり、退居された方がいました。その身寄りのない彼女のために職員たちはよく病室に必要なものを運んでいました。他の方たちも同様で、入院されてからもその関係性は保たれ、死で終わらず、葬儀や、お別れ会、場合によってはお墓のことまで視野に置いた継続支援がなされてきました。

一方、そうしたグループホーム内で、ひとり自室で看取られた方がおられました。その方は、旧からし種の家での入居から看取りまで十年に及ぶホームの暮らしがありました。ご本人やご家族にとって、ご自宅以上に「ここで最期を迎えたい」と思えるほど、住み慣れた「自宅」になっていたのかもしれません。ご家族は「急変してもからし種の家で看取りたい」と強く希望され、かつ、末期ガンが見つかったことで訪問看護サービスを医療保険で受けることが可能になったこともあり、かかりつけ医、訪問看護、グループホームの看護師・介護職員や点滴の間、手を握って見守ってくれたボランティアの人たち、ホームの入居者たちも一緒になってみんなでTさんのいのちに寄り添いながら看取ることができました。また、「からし種の家で葬儀をしてほしい」というご家族の願いも業者含め、協働作業で実現することができました。

そして今また、「Tさんのように最期はここで」と自室での看取りを希望されているご本人とご家族がいらっしゃいます。ご高齢の彼女（九十八歳）にとって、いざという時もご家族が泊まってでも看取ってくれるという方向が定まってからは、まわりの人が皆驚くほど、穏やかに暮らしておられます。その尊いいのちをすべての資源を総動員してでも、みんなで守りたいと思います。

ある夜のことです。からし種の家では長い会議が開かれていました。術後Aさんをホームで受け入れるためには、ハードとソフトの両面において、どのように整備すれば、一緒に暮らしていくことが可能になるのか、職員たちは真剣に協議をし「ともに生きる」決断を出しました。結果的には、ご家族が他施設を選択されて移られることになりましたが、その夜の会議は法人の誇りです。

現場のこうした葛藤がなくなるように、「在宅」としてのグループホームの位置づけを強化する、このことが法改正で求められるべきと考えます。訪問看護利用制限が撤廃されることにより、グループホームは、地域医療との連携強化を図りつつ、少しでもご本人やご家族の希望を取り入れたサービスを展望することができるからです。

機関誌「からしだね」のあしあと

巻頭言

- 創刊号「良い地に蒔かれて」
- 第２号「不　明」
- 第３号「通り過ぎることなく」
- 第４号「目標を目指して」
- 第５号「高齢者を継続して支えるしくみを模索」
- 第６号「こわすに時があり、建てるに時があり」
- 第７号「天の国はからし種に似ている」
- 第８号「万事が益と働いて」
- 第９号「信じるということ」
- 第10号「ゆっくり悲しみを共有」
- 第11号「地域の協力でケア改善」
- 第12号「老いを生きる」
- 第13号「信仰　希望　愛　新たなスタート」
- 第14号「小さな初め　大きな終わり」
- 第15号「急がず休まず」
- 第16号「ぶれない・動かない」
- 第17号「求めよ」
- 第18号「新しい出発」
- 第19号「自宅」としてのホーム

食べる楽しみ

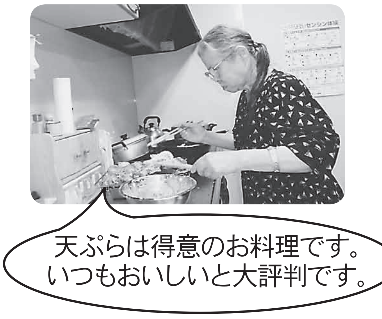
ぼたもちのちから

山際ルリ子

齢を重ねると、日々の暮らしの中で食べることは大きな楽しみのひとつです。

からし種の家でも一般の家庭と同じように、職員たちが毎日の食事の献立を考えながらこの十年作り続けてきました。もちろん、入居されているみなさんと一緒に「夕飯は何が食べたいですか、肉？魚？」などと話し合いながら、そして料理の過程のパート、パートをお互いに分担して共同作業してきました。

夕食の時間が近づくと台所から魚を焼く匂い、胡麻を摺る匂い、にんにくが入っているかな…と食欲をそそられるいい匂いがしてきたりして、リビング中、ごはんが待ち遠しい空気に包まれます。



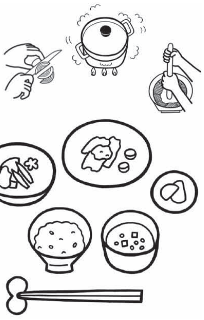
一緒に作って同じものを一緒に食べる・・・「同じ釜の飯を食う」という言葉がありますが、自然と連帯感といいますか、ひとつ屋根の下、同じ食卓を囲む家族のような意識が芽生えたりします。

病を得てもやはり口から食べることは何ものにも替えがたい大切なことです。からし種の家は病院ではありません。介護保険施設ではありますが、家庭的な雰囲気を大切にしていきたいホームです。ですから食事もごく普通の家庭のような料理です。食器はメラミンではなく陶磁器ですし、減塩は重要ですが、すべて薄味というわけではありません。高齢になると味覚が低下してきます。味も素っ気もない料理だけでは食欲も落ちます。しっかりした味が付いてこその料理はそれなりに、みそ汁はうす味で等味にメリハリがあればいいと思うのです。

見た目も大切で彩りはもちろん、入れ歯だから、歯茎のみで召し上がるからといって最初から細かく刻んだおかずは極力お出ししないようにしています。元の姿をお見せしてその上でご本人の了解を得てから食べ易い大きさに切ったりほぐしたりしています。

そうでないと何をたべているのかわかりませんから。形は大きめでも軟らかく煮てあれば入れ歯や歯茎でも口の中で潰せます。箸で割れれば、大丈夫です。

お正月もこれまでずっと白玉団子やご飯ではなく、小さくはしますがお餅を食べてきました。昔から食べ慣れているものは口が覚えているからでしょうか、みなさんうまく召し上がります。



甘いものを口にする機会が少なかった時代にはごちそうだったぼたもちは、春には牡丹餅、秋には御萩と名前を変えるといわれていますが、からし種の家では春夏秋冬ごちそうであり、非常食なのです。この年代でぼたもち（おはぎ）を嫌いな方に今までお会いしたことがありません。お誕生日の食事のリクエストの上位であるぼたもちは、入居者の方が体調を崩して食欲がない時の非常食でもあるのです。食事に箸をつけなくともぼたもちだけは召しあがった・・・ということを幾度となく私たちは経験してきました。入居者の方がいよいよ食欲がなくなって、ぼたもちを探しに何軒もお店を回ったことを思い出します。

からし種の家のみなさんには、これからも四季折々の食材や季節の行事ごとの料理、日常のからし種ごはんを楽しみながらたくさん召し上がっていただけるよう、職員一同努力していきたいと思います。

「与えるもの、与えられるもの」

からし種の家　管理者　川端　智哉

前号よりはや半年、季節も冬から夏に変わりました。日々の変化は小さくても、長い目で見ると大きな変化となります。人の心身も同じです。誰しも歳を重ね、老化してゆくことは避けられません。

からし種の家が開設されて十年、当初より入居されている方もいらっしゃり、ケアの量も多くなってきています。ケアを提供しているのは私たちですが、利用者の皆様との関わりは一方通行ではありません。

笑顔であったり、知恵であったり、心遣いであったり、二倍三倍の人生の深みに満ちた様々なものを私たちがいただくことが多いのです。

必要とするケアが多くなっても、その方が持っている豊かさ、与えてくださる豊かさには変わりはありません。ケアをすることで、実は私たちが癒されている、ケアされている。私はいつもそう感じています。

「刺し子に夢中です」

◀こんな作品を目指して
一針一針、心を込めます。

グループホームマナの家
みんなの庭・みんなの畑

管理者　滝澤　絹代

昨年に続き、今年も庭の花植えを行いました。ボランティアの方にも手伝って頂きながら、プランターや花壇に色とりどりの花を植えました。ご利用者の皆さんも土を入れたり、「同じ色で合わせた方がいいよ」「どれがいいかね」と色合いを見ながらお好きな花を植え、あっという間ににぎやかな庭へと変わりました。

その後もご近所の方やご家族が「家にたくさん咲いていたから」「一緒に植えて下さい」と持ってきて下さった種や草花がマナの庭で元気に根を広げています。

また、今年は何を育てようかと畑を耕していると、ご近所の方がトマトやキュウリ、ナスの苗を分けてくださり育て方も教わりました。おかげさまで、今では実をつけ、皆さんも収穫の時を楽しみにされています。

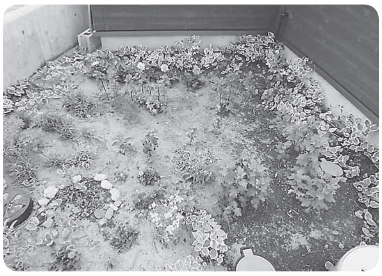
さりげなく花を植えていって下さる方、草取りをして下さるボランティアの方もおられ、たくさんの方が気にかけてくれています。皆さんの気持ちのつまった庭はご利用者の楽しみであり、成長する植物から元気をもらえるという方もいらっしゃいます。水やりをしていると、通りかかる方から「きれいですね」と声をかけていただき、庭を通して多くの方との繋がりが広がっていることを感じます。この場を借りて皆様にお礼を申し上げます。

四季折々の花

ホームの敷地は以前地域の人の駐車場兼歩道でした。そのためか、花壇の脇を歩かれる住民の皆様は、スペースを見つけては、ご自宅にある花を分けて植えて下さいます。

白い花を植えてくださった方が療養中と伺いました。生命力ある花の群れを見るたびに一日も早い回復を神様に祈っています。

マイガーデン



夕方、自転車に乗って来られるSさん（新潟信濃町教会員）は、お花のお医者さんでもあり、お母さんのように細やかに手入れをしてくださいます。知らず知らずのうちにハーブや花が増えていたり、とても表情豊かな庭になりました。おかげさまで、庭に出るのがとても楽しみです。

野菜の苗

種から育てたナスの苗、菊、きゅうり、トマトと野菜の苗を頂いて、小さな畑ですが、マナの家の住人たちは、育てる役割を与えられて今、畑仕事に精を出しています。

地域医療

グループホームマナの家・マナの家 ホームドクター

やぎさわクリニック　医師　八木澤　久美子

このたびは機関紙「からしだね」創刊二十号おめでとうございます。私は平成十九年から、マナの家に関わらせていただいております、やぎさわクリニックの八木澤久美子と申します。今回は地域医療に関して普段感じていることを述べたいと思います。まず、入居者さんが病気になった時に、病院に行く前に第一に相談がくるのが診療所の医師です。ホームドクターとして自分にできることは何か？病院に行かず、ここで診療を続けるとなった場合、患者さんに充分に寄り添ってあげられるか？自分自身に問いかけます。医師としてのセンスと技量を常に磨き続けていなければできないことだと思っています。

さて、マナの家のすばらしいところを言わせてください。それは〝家族として入居者さんと向きあっている〟ことです。

山﨑ハコネ先生はじめ職員の方々が〝この人がもし自分のお母さんだったら、お父さんだったら、どうしたらよいだろう〟ということを考え、一丸となって取り組んでおられるからでしょう。次に、重症になった入居者さん、看取りが必要になった入居者さんへの取り組みが積極的です。その一生懸命で一途な姿勢には本当に頭が下がります。これでよいとはせず、改善改良を考えて工夫を重ねる姿勢は素晴らしいと思います。普段口にはしませんが、〝マナの家との出会い〟そのものに感謝しております。

今後とも微力ですが、力の限り応援したいと思っています。

ご家族

『たくさんの人たちに支えられて』

西村富美子

母が「からし種の家」・「マナの家」にお世話になり十二年になりました。普通の一軒家から始まった「からし種の家」での生活は職員の方々が工夫してお世話して下さり母が安心して生活できているのがよくわかりました。マナの家に移ってからは、病気を繰り返し次第に体が不自由になりました。昨年からは食べる事も難しくなり胃ろうから食事をとっています。胃ろうが必要か？手術をする前も後も時々考えることがあります。ラコールを注入している時ニコニコ笑ったり、問いかけにうなずいてくれると母は生きていたいんだと感じることができます。こんな風に体が動かせなくても今でも声かけに反応してくれるのは職員の方々のお世話のおかげと感謝しています。また定期的に来て下さる主治医の先生、ケアマネージャーや訪問看護の方々、ボランティアさん、たくさんの人たちの力を借りて今の生活ができていることを感謝しています。

ご家族

『ついの住み家』

家坂　玲子

母は、この三月で九十八歳になり、入居して十年目を迎えていま

看護

からし種の会
看護師　服部千加子

グループホームからし種の家・マナの家と公益事業マナの家の利用者様の健康管理を微力ながら、させていただいております。利用者様全員が地域の病院やクリニックに通院、往診で大変お世話になっております。特に鈴木先生と八木澤先生にはホームの往診医として定期的に診察下さり、また、急な容態の変化の時には昼夜問わず駆けつけて診療して下さり健康を守っていただいております。また訪問看護師さんには、お一人お一人の必要に合わせたきめ細かいケアをして頂いています。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

大きな病院へ行けば高度な医療機器による検査や治療を受けられますが、清潔ですが無機質な環境や大勢の見知らぬ人がいる事がご高齢や認知症の方々にとっては辛いものです。食事の準備や後片付け、清掃、洗濯など、暮らしの営みを一緒に送る中で、心身の健康が保たれ、回復力が発揮されることをホームの方々が教えて下さいます。暮らしの場であるホームに居て、医療と看護を受けられることが利用者様や職員にとってなによりの支えです。今後とも連携を取らせていただき利用者様がいつまでもホームでの生活が続けられるように力を合わせていきたいと思います。

みんなで

地域医療

グループホームからし種の家　ホームドクター

鈴木内科・小児科医院　院長　鈴木紀夫

こんにちは。新潟市中央区で開業している、鈴木紀夫です。私の父も医者で、当時、開業医も少なく、病院も少ない状態で、毎日、数十件の往診をこなしていました。一日往診件数の最大は八十件だったそうです。私は幼少期から、父のそんな姿を見て育ちました。まだ、黒電話の頃。もちろん、電話機も一台。父の寝室は二階の奥。電話機は、一階。夜中でも、電話がなると、父は起きて、往診に行ってました。だから、医師になり、在宅患者を診るということは、私にとっては、ごく当たり前のことです。

しかし、時代が変わり、一時、病院偏重の時代となり、病院で死ぬのが当たり前という状態になりました。大家族も崩壊して、ほとんどが核家族。親の面倒まで診れないという風潮。医療費も右肩上がり。ようやく、厚生省が、在宅に比重を置くようになったのは、ごく最近です。アンケートをとると、家で死にたい人が、いまだに半数以上なのに、実際は、ほとんど病院で最期を迎えられています。私は開業以来、何人も看取って来ましたが、ほとんどの場合、家族が一生懸命看てくれた症例に限られます。最近は、高齢者専用賃貸や、グループホームなども、あちこちにできて、そこで最期を迎えられる方も徐々に増えているようですが、最終的には、病院という方がやはり多いようです。今後はなるべく、病院に入らない最期というのを増やしていくべきだと考えています。その意味で、手厚く、目の行き届くグループホームは、今後、より発展すべきだと思います。私も微力ながら、協力していきたいと思います。

す。年々の足腰の弱りはあっても、病で床につくことのなかった母が、昨年暮れに体調を崩し、点滴で体を維持するという状態に陥りました。重篤な状態が続き、母の今後について、医師と職員さん、家族での話し合いが持たれました。私たち家族は、母にとっては『からし種の家』が、終の住み家であること。母の年齢を考えても、ここで出来る以上の医療を望まないことを伝えました。「ご家族がそういう意志であるなら、お互いに支え合って一緒に看取ることにいたしましょう。」理事長さんのその力強い言葉に、途方に暮れる家族は救われる思いでした。人は必ず最期を迎えるときがやってきます。計らずも昨年の暮れに、母の最期を迎える心構えを、きっちり持つことができ、とても大きな安堵を得ています。

もしかしたら、母自身が一番安堵しているのかもしれません。

幸い強い生命力で元気を回復しました。「最期はまぁだだよ。」と母は今日も穏やかに暮らしています。

看護

看護師　細道菜穂子

T様とは十年以上のお付き合いになります。この間に介護度もすすみ、重度のケアを必要とする状態となりましたが、お部屋を訪ねるとすぐにT様は笑顔と声で迎えてくれます。T様は、言葉は話されませんが、熱や血圧を測って「変わりないですよ。バッチリOK!ですよ。」と伝えると、声をあげて喜ばれます。

いつも部屋にはT様の好きな音楽が流れていますが、廊下や2階の物音や気配にもT様は感度が良く、とても安堵された表情をされます。心地よいコミュニケーションを感じる瞬間です。

慣れ親しんだ自宅で生活し続けられる・それを支援する仕事がしたくて、保健師になり、在宅ケアに直接携わりたいと訪問看護ステーションに勤務した私にとって、〝からし種の家〟や〝マナの家〟の出現は、とても驚異でした。このコミュニティーには、殺伐とした時代を忘れさせてくれるほどの穏やかな生活と空間を感じさせてくれます。

介護職員のためのマナーアップ研修

廣井　馨

六月十八日、「介護職員の基本的な接遇マナーについて」の研修を「国際こども・福祉カレッジ 福祉・介護人材育成センター」小柳 緑様を招いて行われました。研修内容は、接遇対応の基本項目（挨拶、感じの良い動作、言葉使い）とマナーアップ、コミュニケーション力アップのためのポイント、また信頼関係を築く接遇対応の実践とコミュニケーションスキルです。

当日は、多くの職員が参加し研修で用意されたプリントの質問に答え、また、講師の先生のお話やご指導に参加者みんながそれぞれの内容について習得しようと熱心に学んだ研修でした。

挨拶やお辞儀のしかたなど実践を交えた研修は好評で、あっという間の九十分でした。研修後のアンケートでは、自分に足りないと思えることが講義の中に出てきて分かりやすかった、改めて毎日の自分の行動を見直す良い機会だった、相手の方に気持ち良く過ごしていただくために接遇を意識して対応したい・・・等、よい気づきができた様子がうかがえました。

研修を通して、一人の印象が施設全体のイメージにつながるということから、職員ひとり一人が挨拶や言葉使いに十分気をつけ、よりよいマナーを身につけていきたいものです。

また、職場内でも職員同志が配慮のある言葉かけで、お互いに良いコミュニケーションを取っていこうと思います。そして、私たちの笑顔で入居者の皆さんの笑顔を引き出すことができればと思います。

研修会のようす

みんなの広場

地域福祉事業　マナの家・みんなの家

日曜さんび夕礼拝

（年間平均出席 17.48 人）

4月24日	オカリナ演奏　高橋玄様 新潟信濃町教会聖歌隊の皆様（4名）
5月 1日	腹話術　渡辺洋子様（五泉教会）
5月15日	オカリナ演奏　本間恵子様（地域） ピアノ演奏　古俣奈保子様
5月23日	バイオリン演奏　羽柴房子様他1名 ソプラノ歌手　五十嵐尚子様
6月 5日	さんび　東加茂聖書教会のメビックの子供たち15名（大人含む）
6月12日	ピアノ演奏　本間和子様（地域）
6月19日	さんび新潟ゴスペルの皆様（8名）
8月28日	さんび　東加茂聖書教会のメビックの子供たち16名（大人含む）
9月11日	メッセージ小淵康而牧師（新潟信濃町教会）
10月30日	メッセージ福井博文牧師（東中通教会）
12月23日	ハンドベル演奏　新潟信濃町教会のジュニアチャーチの子供たち8名（大人含む）
3月11日	ダンバリンバンド演奏　新津福音キリスト教会タンバリンチーム（8名）

手作りの協働の場

新マナの家（複合施設）が誕生して一年が経ちました。地域の中に、早くから一番、溶け込んでいると思われるのが「地域交流スペース（みんなの家・エクレシア）」です。このスペースが確保されたことで、地域の皆様にとっては利用しやすい公共の場所となったようです。主だったものでも、今年も予定されている地域のふれあい七夕夏祭り（七月三十日）、有明地区作品展と法人近隣の福祉施設と協働した福祉バザー（十一月三日）、みんなのクリスマス会（十二月二三日）、被災ホーム「なつぎ埜支援」のための笹団子づくり、募金活動、チャリティー礼拝、ビデオレター作成（某テレビ局協力）が三月に行われました。（詳しくは八面）

「行ったことがない」と言われる地域の皆様、是非、「ここかね」とお訪ねください。お待ちしています。

からし種の家後援会　資金収支計算書　2011年4月1日から2012年3月31日まで　（単位：円）

大　科　目	中　科　目	金　　額
Ⅰ　収入の部 寄付金収入	寄付金収入	1,394,676
受取利息配当金収入	受取利息配当金収入	88
当期収入合計　A		1,394,764
Ⅰ　支出の部 事務費支出	事務費支出	
	通信運搬費 手数料	5,000 15,530
寄附金支出	寄附金支出	
	自動演奏機ヒムプレーヤー	120,750
借入金元金償還金支出	借入金元金償還金支出	1,000,000
当期支出合計　B		1,141,280
当期収支差額　C（A－B）		253,484
前期繰越資金　D		17,910
前期繰越資金　E（C－D）		271,394

※敬称略　（単位：円）

財産目録　2012年3月31日現在　（単位：円）

資　産	金　　額
郵便貯金（11210-9951591）	271,394
資産合計	271,394
負　債 借入金（A） 借入金（B）	 17,300,000 500,000
負債合計	17,800,000
差引正味財産	－17,528,606

からし種の会後援会（賛助会費、維持会費、自由献金等）　2011年12月～2012年6月

神　保　みゆき	10,000
眞　山　成　子	3,000
加　藤　楽　子	5,000
東中通教会　婦人会	5,000
青　山　良　子	10,000
竹　田　一　光	3,000
長谷川　静　子	5,000
新丸子教会　婦人部	3,000
平　原　公　子	5,000
匿　　名	10,000
藤　森　恵美子	5,000
松　本　幸　恵	3,000
青　木　　脩	5,000
一柳　茂樹・民恵	20,000
林　　浄　子	5,000
河村　富雄・千恵子	5,000
倉　本　武　治	30,000
山　岡　清　二	5,000
横　山　豊　治	3,000
小　栗　宗　春	3,000
薩摩　雅宏・牧子	10,000
浦　沢　陽　子	20,000
丹　後　源太郎	3,000
高　橋　悦　子	2,000
藤　野　ミハル	3,000
山北　宣久・千世	50,000
日立教会	5,000
野　島　廣一郎	5,000
市　村　秀　子	3,000
新丸子教会	3,000
新潟教会	10,000
相　浦　めぐみ	5,000
北　尾　隆　昭	5,000
小　柳　直　江	10,000
福　島　三　郎	5,000
遠　藤　真　一	10,000
小　林　　恵	5,000
会　田　きよみ	2,000
東中通教会	3,000
久　保　和　子	5,000
青　木　範　雄	10,000
新潟信濃町教会	10,000
貝　塚　夕紀代	5,000
大　西　英　子	5,000
田　嶋　明　子	3,000
ゆきよしクリニック	8,000
聖ヶ丘教会　壮年会	10,000
草加教会	2,000
敬和学園大学 キリスト教と教育委員	5,000
村上教会	5,000
土　田　成　子	10,000
聖ヶ丘教会	120,000
佐渡教会	3,000
介護老人保健施設こばり園 坪田　泰志	1,000
見附教会	5,000
大　岩　治　子	5,000
横　山　キミイ	2,000
亀　苔　美智子	10,000
加　藤　栄　次	3,000
富　岡　元　子	2,000
小　池　由　佳	4,000
久保田　詠　子	3,000
貴　田　陽　一	30,000
合　　計	568,000

からし種の会（法人への献金）　2011年12月～2012年6月

幸　田　良　子	50,000
青山学院初等部	30,000
周　佐　百合子	10,000
並　木　浩　一	5,000
赤　間　公　彦	10,000
山　﨑　ハコネ	210,000
合　　計	315,000

＊ いつもお支えをありがとうございます。献金・ご寄附をいただく口座 ＊

①後援会の口座
郵便振替口座　払込取扱票で入金の場合
（同封のもの）
口座番号：00540-7-59997
加入者名：社会福祉法人　からし種の会後援会

②法人の口座
第四銀行小針支店　普通預金
口座番号：1311450
名義：社会福祉法人　からし種の会

※所得税控除　当法人が行う社会福祉事業のために②の法人の口座に献金していただくと、所得税法第78条第2項第3号及び法人税法第37条第1項及び第4項に該当し、税金が控除されます。
こちらから発行する領収書が変わりますので、ご理解下さい。

東日本大震災を覚えて

マナの家　五十嵐祐子

私たち、からし種の会では、昨年の大震災で被災されたグループホームに何か、私たち皆で出来る事を支援したいと活動させて頂きました。新潟の名物でもある笹団子を一緒に作り、利用者様の心のこもった手作りのメッセージカードやビデオレターを作成しました。

また、私たちのホームでは毎週日曜日にさんび夕礼拝をさせて頂いてますが、この日はチャリティー、さんび礼拝で、新津福音キリスト教会のタンバリンチームの皆さんにお願いして、タンバリンによる特別賛美が持たれました。礼拝が始まり、タンバリンチームの方々による賛美が始まると、利用者様が自ら手拍子をしたりリズムに合わせて口ずさんだり、振り付けに合わせながら素敵な笑顔で賛美して下さいました。会場は想いが一つになっている様に感じ、利用者様から励ましや力をいただきとても嬉しく、感動しました。この感動や想いと一緒に翌日、仙台のグループホームなつぎ埜へ笹団子と共に多くの方々からの募金・メッセージカードとビデオレターを送ることができました。

遠く離れていても、互いに生まれた絆を大切にそだてながら、この震災の出来事を忘れる事なく、被災された方々をいつも覚えながら、そして、祈りながら歩んでいけたら…と思っています。

～笹団子づくりでつながって～　地域のみなさま、ご協力ありがとうございました。

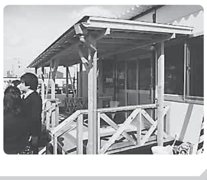
信仰と希望と愛、この三つはいつまでも残る。
その中で最も大なるものは、愛である。

コリントの信徒への手紙 13 章 13 節

3 ／10　笹団子づくり、からし種の家（100 個）
マナの家（200 個）
地域の皆様が多く協力してくださいました。

3 ／11　新潟信濃町教会にて募金活動（21.150 円）
チャリティーさんび夕礼拝
タンバリンバンドの皆様によるさんび
献金＋職員たちの義援金（40,300 円）
A 放送局の協力によるビデオレター作成

3 ／12　仮設のグループホームなつぎ埜に義援金総額 61.450 円と先に宅急便でおくった笹団子等愛の贈り物を届けてきました。



グループホームなつぎ埜では認知症のお年寄りの命が七名、震災で失われたと聞きました。

「からし種の会」としてご利用者も祈りをこめてメッセージカードを書きました。これからも支援を続けていきたいと思います。

6 月 24 日（日）からし種の家にてコーラスグループフレッシュミントさんによる歌や寺尾マジックの佐々木さんによるお楽しみ会がありました。その後、楽しく会食会が行なわれ交流がはかられました。

〈ボランティアさん募集しています〉

「からし種の家」「マナの家」では現在数名のボランティアさんが日中活動し、活躍して下さっています。

①　ご利用者とお話をして下さる方
②　歌を一緒に歌って過ごして頂ける方
③　歌や踊りなどの芸能を披露して下さる方

など

時間・・・9 時～ 18 時の間のご都合のつく時間帯で時間はご相談ください。

ご利用者と一緒に時間を過ごしてみませんか。

ほんの少しの時間でもありがたいのでぜひお越し下さい。

連絡先　からし種の会　ボランティア担当　前澤
０２５－２６７－６６００

編集後記

記念すべき第二十号をお届けできましたことを感謝いたします。これからの「からし種の会」の歩みがみなさまとの大切な架け橋となりますように…と願うばかりです。

本田